

# 2021 ANNUAL REPORT

2021年 年次報告書

# MESSAGE FROM OUR DIRECTOR

## 代表理事メッセージ

私たちの活動に賛同し、支え、共に行動してくださる全ての方々に心より感謝を申し上げます。

おかげさまで POW JAPAN の活動は4年目を迎えています。気候危機問題だけでなく、様々な面で世界が大きく変化しているこの時代に、多くの皆さまに支えられながら活動を広げられていること、本当に有り難く感じています。

2021年は史上最も早い桜の開花から始まり、熱海での豪雨災害、もはや驚かなくなってきた猛暑(年平均気温は1位の2020年、2位の2019年に次ぐ史上3位)、そして冬は災害級の大雪に見舞われた(恵まれた)激動の1年。私たちににとってもこの1年には多くの出会いや学びがあり、私たちの活動を広げる沢山の機会がありました。

印象に残ったものを挙げると、一つは長野県内の索道事業者の皆さんに私たちの活動と気候危機の現在をお話させて頂いた機会です。長野=雪国のイメージの通り県内には多くのスキー場が点在していますが、緯度や標高などの違いが大きく、それぞれに積雪の状況が異なります。雪の減少はどの地域でも話されてはいるようでしたが、特に南側の地域は少雪だった2019-20年シーズンはほとんど営業が出来なかったところもあったそうで、何年も前から、温暖化は人ごとでは無いと話されていました。

また、11月に札幌市で開催した「雪を守るシンポジウム」では、北海道の雪・気温の変化を学び、世界最高の雪質ともいわれる北海道の雪にも影響が出始めていることを、研究者の方から科学的な視点で話してもらいました。後半では、そこを実際に滑ってきた POW アンバサダーたちの実体験の言葉を重ねて、「北海道の雪の現状」をよりリアルティのある形で捉えることが出来ました。

温暖化が進み、世界でも日本でも「脱炭素」「SDGs」などの言葉が一気に広がり、社会的な大きな流れを皆さんも感じていると思います

が、環境のために行動するスノーボーダーやスキーヤー、アウトドアを楽しむ人たちが増えていることを、私たちも感じています。

コロナ騒動が続く中、ウクライナでの戦争は世界に大きなショックを与え、この先も様々な問題の連鎖が予想されています。人災により「気候危機どころではない」という状況に陥っている人たちがいることは本当に悲しいことだし、何かその状況を良くすることが出来るのならば私たちはそこに力を注ぐべきでしょう。しかし、その裏で気候危機もどんどん悪い方向へと進んでいっています。戦争の問題も気候危機の問題も同じで、このまま私たちが目を向けず何も行動をおこさずに、ただ日常に向かい続けているばかりでは、悪い方に進んでいってしまうばかりです。

私たち POW JAPAN は、皆さまから預かった力を最大限に活かしていけるよう、引き続き活動を進めてまいります。この素晴らしい「地球」を、子どもたちやその先の世代、未来につなげていくため、挑戦し続けていきます。

気候危機問題を解決出来る社会は、きっとそれ以外の問題も解決出来る社会です。

どうか共に、未来を信じ続けてください。  
これからも、私たちの活動を見守っててください。  
いつも本当にありがとうございます。



代表理事

小松 吾郎



# HIGHLIGHT

数字で振り返る

**274,830**

(筆)

あと4年署名数

**7** (エリア) **230** (名)

スノータウンで開催したClimate Action参加延べ人数

**10,748** (名)

POW コミュニティ SNSフォロワー

**93** (%)

気候変動を実感している人の割合  
(POW JAPAN実施気候変動意識調査)

**166** (基)

稼働中の国内石炭火力発電所

**46** (%)

日本の2030年度の温室効果ガス削減目標(NDC、2013年度比)。パリ協定の1.5度目標に整合させるためには、60%に引き上げる必要がある。

## IPCC、地球温暖化の原因は「人間の活動」によるものと初めて断定

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、1990年に最初の報告書を公表してから、人間活動が及ぼす温暖化への影響についての表現を徐々に強め、8年前の第5次の報告書では「温暖化の主要因は、人間の影響の可能性が極めて高い」としていました。

今回の報告書で初めて「人間の影響が大気、海洋および陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と断定しました。



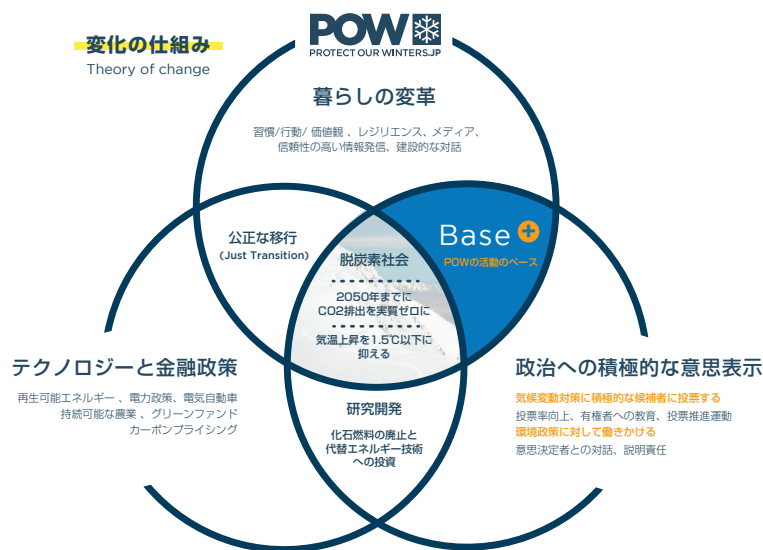
# OUR MISSION

私たちのミッション

アウトドアアクティビティに情熱を注ぎ、そのフィールドやライフスタイルを気候変動から守るために行動する仲間たちの力となる。

# VISION2025

私たちが描く未来



私たちの愛するフィールドやライフスタイルを気候危機から守るため、脱炭素社会を意識した選択と行動がスノーコミュニティ\*のスタンダードになっている。

また、それぞれが身近なコミュニティと協働しながら社会づくりに積極的に関わることで、「社会の仕組み」の変化をもたらす力となっている。

スノーコミュニティは気候危機の解決を後押しする市民ムーブメントとして大きな影響力を持ち、日本のNDCの大幅な引き上げ\*に貢献し、地方自治体や企業など国全体で脱炭素化が加速している。また、スノータウン\*のサステナブル化\*が着実に進み、ゼロカーボンと地域内循環\*の両立を目指す脱炭素社会の一つのロールモデルとなっている。

※スノーコミュニティ: スキーヤー・スノーボーダー (650万人)、アウトドアブランドやメディアをはじめとする関連企業、スキー場 (500箇所超)、スノーリゾートを持つ地域・自治体 (日本の約30%)

※NDC: 2030年までの国別の温室効果ガス削減目標、2013年度比で60%以上を目指す

※スノータウン: スキー場とその周辺自治体

※サステナブル化: エネルギーの地産地消、省エネ、省資源、食の地産地消、ゴミ削減、リサイクル、生態系の再生など

※地域内循環: お金や資源が地域内を循環することで、地域に持続的に価値を生み出す自立した構造





# CAMPAIGNS2021

キャンペーン

## あと4年、未来を守れるのは今

2021年は日本の「エネルギー基本計画」の見直しという重要なタイミングでした。このエネルギー基本計画に対して、化石燃料も原発も使わない、持続可能な再エネ100%の気候・エネルギー政策を求めるため、様々な環境団体や市民団体、企業とともに「あと4年、未来を守れるのは今」キャンペーンを実施。最終的には計274,830筆の署名を菅内閣総理大臣、梶山経産大臣、小泉環境大臣、河野行革担当大臣にあてて提出しました。

また、署名提出と合わせて全国122箇所で開催された「全国一斉スタンディングアクション」では、冬を愛する仲間たちもニセコ町、片品村、野沢温泉村、信濃町、大町市、白馬村でそれぞれ企画し、約220名の仲間たちが各地のスタンディングに参加してくれました。

**274,830** (署名数)

**7** エリア **220** 名

スノータウンで実施した全国一斉スタンディングアクション／参加数



## VOTE FOR THE DAY

### その一票がTHE DAYを守る

2021年10月の衆議院議員選挙に合わせて選挙キャンペーンを実施。選挙は、ゼロカーボンへの転換の大きな鍵を握る「政治」に対して声を届ける、とても重要な機会。このキャンペーンでは「投票することの意味」や「気候危機と政治の関係性」を理解してもらい、「各候補者や政党がどんな考えをもっているかを知る」ための情報提供を積極的に行いました。また、アンバサダーのトークライブや皆さんのハッシュタグ投稿により、「選挙について気軽に話すこと、シェアすること」が少しずつ、でも確実に広がっていると実感できました。

**127**

#votefortheday投稿数

**5,754**

Senkyo Session LIVE 再生回数

<https://protectourwinters.jp/vote-for-the-day/>





# Hot Planet Cool Athletes

気候変動講習



2021-22に実施したHot Planet Cool Athletes (HPCA) 及び気候変動講習は述べ16回、3,000人近い方々にお話ししてきました。HPCAは中・高生向けのプログラムですが、低学年や大学生、スキー場や企業など幅広い層からも多くのリクエストをいただき、この問題への関心の高まりを感じます。スキー場関係者の皆さんを対象とする際は、国内外のスキー場の先進的な取り組みなども紹介して、変化を後押ししています。

受講者数

**614名**

学校での開催 (5つの小中高等学校で開催)

**2,310名**

学校外での開催 (長野県内の索道事業者やスキー場従業員向け講習会、オンラインなど11箇所で開催)



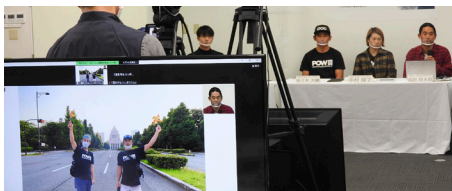


# PICK UP PROJECT

## 「雪を守る」シンポジウム 開催

POW JAPANは札幌市、Fridays for Future Sapporo、(地独)北海道立総合研究機構、(株)ピーアールセンターとともに『「雪を守る」シンポジウム～北海道・札幌の雪を守るためにわたしたちは何ができるか?』を主催しました。シンポジウム前半は、気候変動が北海道の冬や雪に与える影響を、科学的な視点と雪上でその変化を体験するアスリートたちからの視点の双方から考察。アスリートの代表として、地元北海道で活動するPOW JAPANアンバサダーの佐々木大輔さんと中村陽子さんが登壇、玉井太郎さんと鈴木彩乃さんからはビデオメッセージにてそれぞれが感じる冬の変化について話してもらいました。後半では気候変動に対して取り組むPOW JAPANとFFF Sapporoから実際の活動を共有し、私たちが今できることについてパネルディスカッションしました。

基調講演で野口博士が示した北海道の雪に関する60年間の長期変化傾向データによれば、気温の上昇傾向、積雪量や積雪深の減少傾向、湿り雪の増加傾向、北海道でも温暖化の影響を受けていることは科学的にも否めません。しかし、今回のシンポジウムとともに主催した、行政や研究者、冬を愛するアスリートたち、そしてアクティビストなど、北海道・札幌でも冬を守るためのムーブメントを広げていく仲間はずでに揃っていることを確信する、とても貴重な機会でもありました。



## MAKE for FUTURE RIDE

### 作る・遊ぶ・考える 雪と地球のミライ

東京の高校に通うスノーボードが大好きな高校生の危機感と行動から生まれたプロジェクト。年々スキー場の雪が減ってきていることに危機感を抱き、雪を守るためのアクションとして自ら考えた企画を私たちに提案してくれました。会話を重ね、「間伐材で雪板を作って遊び、地球の未来について考える」という企画に決定。企画の実現に向けて、アンバサダーの五明淳やKEEN JAPAN、FSC ジャパンなど様々な方の協力を得て、雪板ワークショップと雪板体験会を実施しました。高校生たちの想いがたくさんの人を巻き込み、楽しみながら行動するきっかけを与えてくれました。



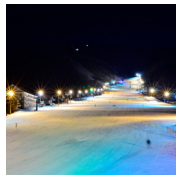
## HAKUBAの現在地

2019年に気候非常事態宣言を掲げた白馬村とその周辺エリアでは、それ以降様々な取り組みが多面的に実践されています。

宣言のきっかけとなった2019年のグローバル気候マーチを中心的に企画した白馬高校の学生は、その後教室の断熱改修プロジェクトを実施。白馬南小学校でも児童たちが教室の断熱改修を行ったり、白馬中学校では毎年SDGsミーティングが行われるなど、地域の子どもたちも積極的にSDGsに取り組んでいます。

スキー場においては、ゲレンデ内の約7割のリフトを再生可能エネルギー100%で運行する白馬八方尾根スキー場をはじめ、五竜や岩岳でも再生可能エネルギーの導入やその他の環境に配慮した取り組みが進められています。また、白馬村観光局が主催するGREEN WORK HAKUBAでは、持続可能な未来に向けて動き出すために、サーキュラーエコノミーの考えを取り入れた白馬村のビジョンを掲げています。白馬村の行政が設置した再生可能エネルギーの利用について検討する協議会は、白馬村ゼロカーボンビジョンを策定。観光DMOのHAKUBA VALLEY TOURISMも2020年にSDGs宣言と中長期目標を掲げ、事業者の実践を促すためのアクションリストや冊子、映像などを制作しました。市民レベルにおいても理解を深めるため「地域と暮らしのゼロカーボン勉強会」が定期的に開催されています。

POW JAPANはこれらの地域のさまざまな動きに伴走し、HAKUBA VALLEY全体としてゼロカーボンに向かって着実に歩みを続けられるようサポートしています。



POWオーディエンス 12,190

メールニュース  
購読者数

1760

Facebook  
followers  
2880

Instagram  
followers  
7550

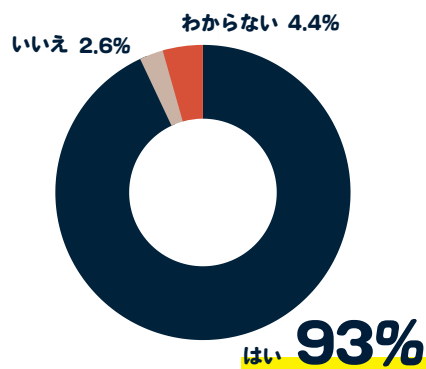
コミュニティ

# COMMUNITY

POW JAPANの仲間は、19名のアンバサダーと36社のパートナーにまで広がり、これまでにご支援いただいた個人サポーターの皆さまは累計で1400名、さらに80のショップが「POWリテールプログラム」にご参加いただいています。私たちの活動を支えてくださり、ともに行動して下さる皆様に心から感謝も申し上げます。「冬を守る」ムーブメントを広げ、より影響力のあるアクションをアウトドアコミュニティから仕掛けていくためには、さらなるコミュニティの拡大が必要です。

## 気候変動意識調査を実施

Q 気候変動を実感していますか？

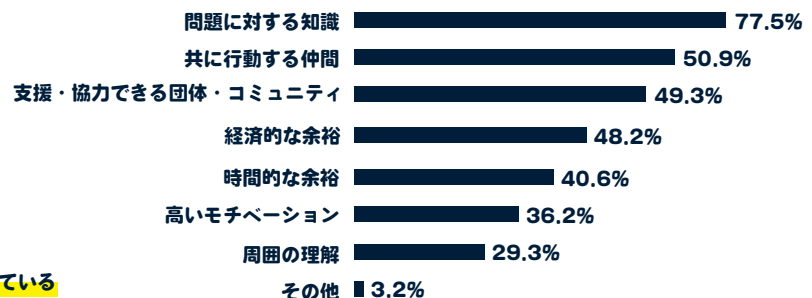
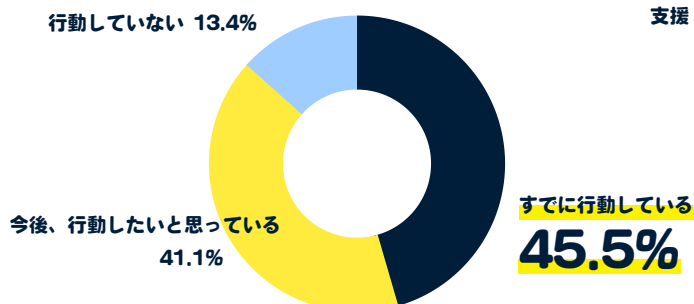


スキーヤー・スノーボーダーを対象とした気候変動意識調査を実施。2,000件近く集まった回答からは、9割近くの人が気候変動の影響を実感し、その多くがこの問題に関心を持って、実際に行動をしている、あるいは行動をしたいと積極的に考えていることがわかりました。スノーコミュニティは気候変動問題に対する関心がとても高く、その解決に向けた行動にも非常に強い意志をもつコミュニティであることがわかります。また、行動を後押しする要素として「問題に対する知識」や「共に行動する仲間」が上位にあり、POW JAPANの存在意義も明確になりました。

この調査結果はPOW JAPANのWEBサイトにて公開しています。

Q 解決に向けた行動を起こそうと思ったときに、  
どのような要素があると実行できそうですか？

Q 気候変動問題の解決に向けた行動について  
今のあなたの状況を教えてください。





POWアンバサダー

# AMBASSADOR

中山 悠也  
丸山 春菜  
小西 隆文  
植木 鹿一  
小松 吾郎  
大池 拓磨  
鈴木 新  
五明 淳  
山崎 恵太  
中村 陽子  
佐々木 大輔  
玉井 太朗  
鈴木 彩乃  
中島 力  
橋本 通代  
佐藤 亜耶  
河野 健児  
河野 由貴子  
小野塚 彩那



パートナー

# PARTNERS



スノーボード/スキー/乗鞍リゾート  
MONSTER CLIFF

patagonia



DIGGIN'MAGAZINE

FBI LINE  
Snow & Snowboarder's Magazine



BOA®



SLOPE PLANNING



PIONEERWORK

UPLND



NOZAWA  
Sports Thanx

grooves



Yamada



長野県索道事業者協議会





# メディア掲載

新聞掲載 **6** 記事

テレビ放送 **2** 回

スノー関連雑誌 **2** 媒体

WEB記事 **6** 記事

## WEB

SNOW HEAVEN

<https://snowheaven.jp/pow-japan-interview>

BRAVO MOUNTAIN

<https://bravo-m.futabanet.jp/articles/-/120811>

SURF&SNOW

<https://surfsnow.jp/article/ski-snowboard/detail/1day2022/>

poroco

<https://www.poroco.co.jp/newsreport/1619/>



## 新聞



# POW JAPAN 紹介

## 理事会

小松 吾郎 代表理事  
玉井 太郎 理事  
中村 陽子 理事  
中島 力 理事  
藤田 崇宏 監事

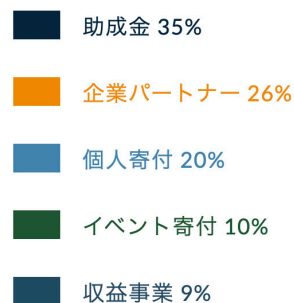
## 事務局

高田 翔太郎 事務局長  
脊戸柳 武彦 副事務局長  
小松 由紀子  
鈴木 瞳  
笹田 知里

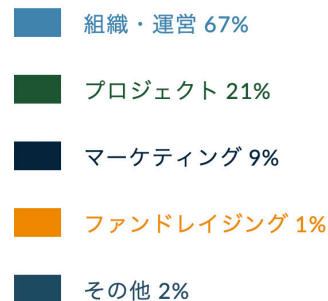
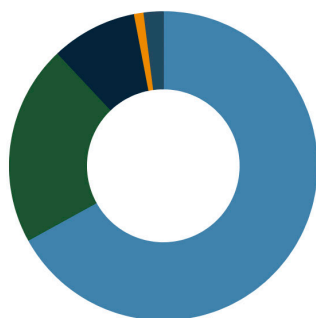
# ファイナンス

## 2021-22 財務報告

### 収入



### 支出



2021-22決算報告書はWEBサイト (<https://protectourwinters.jp/aboutpow/>) よりご覧いただけます。



## 変化の「うねり」を 巻き起こすために

事務局 長  
高田翔太郎



気候の変化が雪山の影響にとどまらないことを実感する機会が増えてきました。最近では、自分の経験として気候変動を語る人にも多く出会います。同じ土地に長く暮らす年配の人、農林業や漁業、あるいはアウトドアに従事する人、海や川で遊ぶ人、自然と向き合う生活を送る人たちから聞かされる雪山以外のストーリーは貴重です。今年6月の猛暑は記憶に新しいですが、日本だけではなく、ヨーロッパ、インド、バングラデシュ、中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア、異常な熱波や豪雨、洪水のニュースが世界各地から届く状況は、より深刻さを増しています。

そんな状況の中で、世界では“気候変動”はもはや環境の問題にとどまらず、経済や金融、安全保障や人権といった様々な分野を横断する話になっていて、G7(世界経済について話し合う主要国首脳会議)で議論されるようなテーマになっています。つまり、気候変動の影響はいま世界が抱える様々な問題を悪化させることにも繋がるし、その解決策はエネルギーのみならず、農林業や食、交通、まちづくり、教育、金融など、多様なテーマからのアプローチを必要としている。それが世界の共通認識です。

日本においてはどうか？ 残念ながら、その共通認識が社会に共有されているとは言えない状況です。この原稿を書いている今日、参院選の投票日ですが、政党や候補者の主張、メディアの報道からは、気候やエネルギー、環境の話はなかなか聞こえてきませんでした。気候危機は実感しているものの、その解決に向けた行動に対して積極的になれない、日本はそんな状況かも知れません。変わることを抵抗が社会に重くはびこっているように感じます。

一方で、希望を感じる景色も見えています。気候変動を争点化させるために自ら政党や候補者の政策をチェックし公表する環境団体や若者を中心とした取り組みは、投票行動の貴重な判断材料になっています。POW JAPANの活動拠点となっている白馬村で行われた村長選

では、環境や気候変動対策は重要なテーマの一つになっていました。また、SNS上で自分の意見や考えを発信し、投票を呼びかける投稿も増えてきているように感じますし、自身の周りでも様々な形で選挙に関わる同世代(30～40代)が多くいます。

大事にしたいこと、重要と考えているテーマのために、行動を起こすこと。共感できる仲間と共にその輪を広げて社会に対して発信し、関わっていくこと。この姿勢と行動の積み重ねこそが気候危機の解決においても希望の光を大きくします。

このような現状認識と未来への視座を持ちながら、2022年以降、POW JAPANでは以下のことに注力していきます。まずは気候危機の解決に向けた市民ムーブメントに貢献する、アウトドアコミュニティを大きくします。自然環境を守り、再生させていくことの重要性を発信し、社会の課題を同時に解決していく気候変動対策の共有をしていきます。その上で、国の政策や目標に影響を与えられるコミュニティに成長させ、効果的なタイミングでキャンペーンを実施します。企業や自治体の対策の目安は国の目標に左右されるため、脱炭素化の加速には、国の高い目標設定が欠かせません。そして、スノータウンのサステナブル化を進めます。自分たちの遊び場であるスキー場や暮らす街が自然環境に配慮された形に進化していくには、スキー場や自治体の取組に期待するだけでなく、利用者(市民)の賛同や応援が大きな後押しとなります。スノータウンが日本の脱炭素化をリードする存在になること、これはスキーヤー、スノーボーダーにとっても誇らしいことです。

“冬を守りたい”から始まったムーブメントは、自然を愛する想いを原動力に着実に広がっています。気候危機の解決を目指すPOWの活動を通して感じる、「社会を良い方向に変えられる」という手応えと、「変化」の実感を、応援してくださるみなさまと共有しながら、前進していきます。

前に進む“力”を与えてくれるみなさまの存在に、心より感謝申し上げます。共に、より良い未来に向かって。





## ご支援のお願い

POW JAPANは非営利徹底型の一般社団法人として活動を行っています。そのため、私たちの活動の大部分は、皆さまからのご寄付とご支援に支えられています。

雪山や冬を愛する仲間のサポートが、POW JAPANの活動をよりパワフルで効果的なものへと押し上げてくれています。継続的なご支援に心から感謝申し上げます。

引き続き皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

<https://protectourwinters.jp/supporter/>

## POW JAPAN連絡先

一般社団法人Protect Our Winters Japan

[info@protectourwinters.jp](mailto:info@protectourwinters.jp)

